

## 国際会議から アメリカ地球物理学連合2016年秋季大会

今回で49年目を迎えた本会議は、毎年世界各地から約24,000人の参加者が集まる、地学系としては世界最大規模の学会です。そのためカバーする分野は広範囲に渡り、セッション数も約1,700に上ります。

筆者は、早期地震警報における地震規模の早期決定に関するポスター発表を行いました。多くの方から質問・コメントをいただき、非常に有意義な議論をすることができました。なお、この早期地震警報について、日本においてはその実用化が早く、鉄道でのP波警報の実用化から25年、気象庁の一般向け緊急地震速報の開始から間もなく10年になります。しかしながら、世界的にはまだまだこれから<sup>ひろ</sup>拡がっていく技術で、さまざまな研究開発が各地で行われています。今後も研究発表を継続して行うことで、日本の技術の存在感を示していきたいと考えています。

本学会は、ホリデーシーズンの真っ最中に、世界でもトップクラスに滞在費が高いと言われるサンフランシスコで長年開催されてきました。ところが、2017年と2018年は毎年会場としてきた施設が工事のため使用できず、別都市（ニューオーリンズおよびワシントンDC）での開催を余儀なくされました。幸いにして、2019年にはサンフランシスコに戻ることが発表されています。

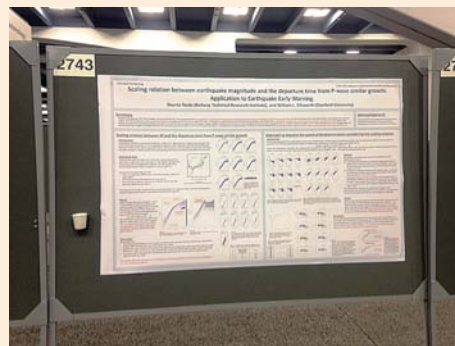


野田俊太  
鉄道地震工学研究センター  
地震解析研究室  
副主任研究員

正式名称：American Geophysical Union  
2016 Fall Meeting  
開催国：アメリカ合衆国(サンフランシスコ)  
期間：2016/12/12-16  
主催：アメリカ地球物理学連合  
開催頻度：毎年  
次回開催予定：2017年12月  
アメリカ合衆国(ニューオーリンズ)  
ホームページURL：<http://fallmeeting.agu.org/2016/>



会場風景



筆者のポスター